

久田くにひろ

市政レポート
Vol.1
2019年 8月号

立憲民主党
The Constitutional Democratic Party of Japan
リッパけん



名古屋市議員

<http://k-hisada.com>

はじめに — ごあいさつとプロフィール

4月施行の名古屋市議員選挙（瑞穂区選挙区）におきまして、6,021票を賜り、初当選させていただきました。議員としての重責を受け止めて、若さ・情熱・行動力を活かして、全力で名古屋市政に取り組んでまいります。私の原点は、「誰も置き去りにしない社会」を目指すこと。子ども、女性、若者、高齢者、被災者、障がいと共に生きる方、難病や病気と向き合う方、生活に困窮している方、LGBTQと誰一人として置き去りにしない社会を名古屋から実現をしていきたい。一日も早く皆様のお役に立てるよう、より一層の勉強・努力を積み重ねてまいります。これから、末永く心強いご支援の程、よろしく願いいたします。

久田 邦博

プロフィール

昭和58年 12月31日生まれの35歳。瑞穂区生まれ。陽明小・汐路中・天白高を経て青山学院大学経済学部卒業、名古屋大学大学院経済学研究科修了。不二家・京セラ（KDJ）で法人営業に従事。平成31年 4月の名古屋市議員選挙で初当選。現一期目。

名古屋民主市議団の一員として、議会活動を始動。

私たちは、バランスの良い名古屋市政を実現することでこれからの社会を考え、施策の選択と集中で“次世代に豊かな社会をつなぐ”ことをスローガンに皆様の負託にお応えしてまいります。

本年度の所属委員会が決定いたしました。

★常任委員会 都市消防委員会

住宅都市局、防災危機管理局、消防局の所管する事項を対象に審議します。

★特別委員会 安心・安全なまちづくり対策特別委員会

地域の安全の確保および青少年の健全育成に必要な施策の推進、道路交通の安全確保と円滑化、食の安全の確保を対象に審議します。



イベントのご案内

□ 市政・県政報告会 [立憲カフェ in 瑞穂] を開催します。



- 開催日時 2019年 8月 31日[土] 13時から
- 開催場所 カフェ ブランチ 瑞穂区豊岡通 2-40 瑞穂運動場西駅すぐ
- 会費 100円
- 弁士 高木ひろし愛知県議会議員 久田くにひろ名古屋市議員

皆様と語り合う場になりたいと思います。



□ 初 第1回久田くにひろ後援会パーティー

開催日時 令和元年 11月 22日[金] 午後 7時 00分～

開催場所 瑞穂区 エルダンジュガーデン 名古屋市瑞穂区八勝通2-18 TEL 052-831-1011

参加費 6,000円

特別ゲスト、ピアノ演奏等イベント盛りだくさん。

郵便振替
口座番号 12070-15657771
加入者名 久田くにひろ後援会

お申込みは久田くにひろ事務所まで



久田くにひろ 事務所のご案内

料金別納郵便

久田くにひろ



LINE公式アカウント

目指せ登録者数1万人

久田くにひろ事務所を、汐路学区にある桜並木で有名な山崎川沿いに、新しく開設しました。地域の皆様が開かれた事務所になっていますので、お気軽にお立ち寄りください。



久田くにひろ事務所 〒467-0007 名古屋市瑞穂区大殿町3-5 ドミール汐路 101号室
TEL 052-846-3460 FAX 052-846-3461 Email hisadakunihiro92@gmail.com

SDGsの名古屋市の取組みについて

質問

SDGsで重要な点は、17のゴールを相互に関連させ、総合的に達成することにあると考える。SDGsの取組みは多岐にわたり、それぞれの事業を所管する局がしっかりと連携して取組むことで、SDGsが掲げる「地球上の誰一人として取残さない（leave no one behind）」を、実現できると思うが今後SDGsをより推進するにあたり、部局間の連携について本市としてどのように取り組んでいくか？



総務局長回答

次期名古屋市総合計画に計画を明示するなど、本市としてSDGs達成に向けて、全庁的に共有し施策の推進を図っていく。そのため、情報共有や進捗状況の確認、積極的な取組みの働きかけなどを行うため、全庁横断的な会議を設けるなどにより各局が緊密に連携・協力していく。

質問

SDGs達成に向けて、多様な主体（マルチステークホルダー）が参加できる場の提供のみならず、SDGs活動そのものを協働で企画するような連携体制を構築できるかどうか本活動の核であると考えている。本市には、「環境首都なごや」や「持続可能な地球社会」を支える人材を育てることを目指して、市民団体事業者、行政などが協働で運営する「なごや環境大学」がある。同大学が掲げる目標（2017年度）では『持続可能な都市の実現に向けて、ESD（持続可能な開発のための教育）の実践・充実・拡大を行い社会の多様な主体が「行動しやすくなる」しくみづくりに力をいれる』としており、まさにSDGsの理念に通じるものである。そこで、SDGsの達成に向けて、市民や事業者を巻き込み、「環境」の側面だけでなく「経済」「社会」の側面も含め、今後どのように事業を進めていくのか？

環境局長回答

SDGsの目標は幅広く、行政だけでなく、市民、事業者、大学など、多様なステークホルダーが関わって進めることが重要であり、産官学にまたがる「なごや環境大学SDGs未来創造クラブ」を立ち上げ、SDGs達成に向けた取組みを進める。具体的には、中小企業を含む企業経営へのSDGs浸透を図る事業や子ども向けのSDGs学習プログラムを制作する事業を予定。市民、事業者へ、SDGsの理解、浸透を図り、SDGsを自分ごととしてとらえ、自ら行動を起こしていただけるように、多様なステークホルダーとの協働により事業を推進していく。

要望

重要なことは、ある特定部局の事業内における産学官民連携や、単に諸団体の活動の発表の場づくりといった間接的な支援に留まることなく、多様な主体と共に本市におけるSDGs活動のデザインやプランニングを進めることである。また、愛知県や愛知県内の自治体および国際的な連携も重要。本市で、SDGsの取組みを一層進めていくため、内閣府が公募した「SDGs未来都市」に本年3月に応募しているが、こういった機会を契機に、今後はそうした総合的なSDGs活動方針を議論する場づくりを積極的に検討するよう要望する。

追記

令和元年7月1日に、内閣府により、名古屋市が「SDGs未来都市」に選定された。同様に愛知県や豊橋市も選定。さらに、7月8日に「名古屋市まち・ひとしごと創生・SDGs推進本部」を組織し、全庁的にSDGsに達成に向けて本市が動き出すことが確認された。

持続可能な開発目標（SDGs）とは。

2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年に国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものであり、日本も積極的に取り組む。



子ども食堂と関係機関との連携について

質問

子ども食堂は全国各地で広がりを見せている。子ども食堂は、地域の有志が経済的な事情などにより、家庭で十分な食事がとれない子どもに食を提供するだけではなく、食を通じて地域の人達とのつながりが芽生え、社会性を身につけられるような「子どもの居場所」づくりを進めるものである。現在では全国で約2,300箇所、本市においては50箇所以上開設され、子ども食堂が地域の子どもの居場所の一つとして認識されている。さらに、子ども食堂は、子どもの居場所の提供にとどまらず、大人や高齢者の方々も含む多世代の地域の居場所としての役割をも期待されており、子ども食堂の必要性が高まっている。子ども食堂の活動がより一層広がっていくためには、子ども食堂が学区役所、社会福祉協議会などの関係機関と連携していくことが重要であるが、連携強化のための働きかけを行っていく考えはあるか？



子ども青少年局長回答

子ども食堂は、子どもを中心とした地域福祉の担い手としても機能していることから、子ども食堂が地域の関係機関と連携することで、地域での子どもの見守りが強化されるとともに、子ども食堂の活動もさらに広がっていくことを期待している。本市として、学校や児童館など子どもに関わる関係機関に子ども食堂の取組みより一層周知するとともに、子ども食堂と関係機関との連携が図られるよう努めていく。

要望

子どもの貧困について、わが国の実に7人に1人の子どもが貧困状態にある。ひとり親家庭に至っては2人に1人が貧困状態にある。貧困の家庭で育った子どもは教育水準、所得水準に影響を与えると経済学的にも示されており、親の貧困が子どもの将来にまで連鎖してしまうのである。人口減少と高齢化が進み、持続可能な社会を創るためには、今こそ、子どもの貧困に真剣に取り組む必要があると考える。さらに、本年内閣府が公表した「貧困状態にある子どもを支援する民間団体の6割超が、資金不足に直面している。」との調査結果がある。広がりつつある地域の有志の志がつかないことがないよう、早急に活動の支援も行ってほしい。本市においては、地域福祉の観点だけでなく、子どもの貧困解消の観点も持ち、積極的に子ども食堂の活動の支援、子どもの貧困の連鎖を断ち切るための取組みを進めるよう強く要望する。